

## 実体経済の動向

### ◇生産、出荷は前月に続き増加、在庫は前月増加のあと減少

(生産——小幅増加)

1月の鉱工業生産(季節調整済み、前月比(注)、速報)は+0.8%と前月(+2.3%)に続き小幅ながら増加となった(前年同月比+3.6%)。

(注) 以下増減率は特に断わらない限り前月比または前期比(物価を除き季節調整済み)。

1月の動きを財別にみると、建設財、生産財が前月増加のあと減少となったものの、資本財輸送機械、耐久消費財、非耐久消費財が前月に続き増加となったほか、一般資本財も前月減少のあと再び増加した。すなわち、資本財輸送機械は普通自動車、小型自動車が輸出増を映じて増加したほか船舶もかなりの増加を示したため前月に続き大幅増加となり、一般資本財も農業用機械、通信機械が減少となったものの、事務用機械、電子計算機が増加を続けたほか産業用電気機械(標準変圧器)、金属加工機械、電動工具、土木建設機械、特殊産

業機械等が前月減少のあと増加を示したため、全体でも前月減少のあと増加となった。

また、耐久消費財は時計が減少となったものの、暖ちゅう房熱機器、二輪自動車、光学機械・同部品(カメラ)が増加を続けたほか、民生用電気機械(電気冷蔵庫等)も前月減少のあと増加を示したため全体でも前月大幅増加に続き小幅ながら増加となり、非耐久消費財もニットおよび繊維二次製品、灯油、揮発油、総ゴムぐつ等の増加を映じて前月に続き増加となった。

一方、建設財はH形鋼、小形棒鋼等が前月に続き増加となったものの、土石製品(コンクリート管)、セメントが前月に続き減少したほか、建設用金属製品(鉄骨、アルミサッシ等)、板ガラスも前月増加のあと減少したため、全体では前月小幅増加のあと減少となり、生産財も銅地金、アルミ圧延品が増加を続けたほか、板紙(段ボール原紙、白板紙)、その他の紙・紙加工品(段ボールシート)も増加したものの、冷間仕上鋼材(普通鋼冷延鋼板等)、アルミ地金等が減少を続けたほか、有機薬品(エチレン、プロピレン等)、プラスチック(塩ビ樹脂、ポリエチレン、ポリプロピレン等)、紡績、織物等も減少を示したため、全体では前月増加のあと小幅減少となった。

(出荷——かなりの増加)

1月の出荷(速報)は+2.1%と前月(+1.6%)に続きかなりの増加となった(前年同月比+2.0%)。

1月の動きを財別にみると、資本財輸送機械、耐久消費財、非耐久消費財、生産財が前月に続き増加となったほか、一般資本財、建設財も前月減少のあと増加を示すなど軒並み増加となった。すなわち、資本財輸送機械はトラックが前月大幅増加(輸出増)の反動から大幅減少となったものの、船舶が増加を続けたほか、小型自動車、普通自動車も輸出増から前月減少のあと増加を示したため、全体では前月に続き増加となり、一般資本財は土木建設機械、農業用機械が減少したものの、電力設備投資関連の電力・通信ケーブル、産業用電気機械(標準変圧器)、合理化投資関連の電子計

### 鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	55年				55年		56年
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	11月	12月	1月
鉱工業	143.4	143.6	140.3	142.6	140.8	144.0	145.1
指数							
前期(月)比	4.1	0.1	-2.3	1.6	-1.5	2.3	0.8
前年同期(月)比	11.4	9.1	4.7	3.6	1.9	3.9	3.6
投資財	3.5	1.3	-1.3	-0.1	-0.9	1.1	1.3
資本財	4.1	2.6	1.5	1.5	-0.4	1.0	2.1
同(輸送機械を除く)	4.3	2.7	0.4	3.0	1.3	-0.9	1.3
輸送機械	4.4	2.3	2.5	-1.5	-6.9	8.3	6.0
建設財	1.7	-1.8	-8.4	-2.9	-1.7	0.4	-1.2
消費財	5.2	-0.6	0.6	4.4	-1.1	3.7	2.4
耐久消費財	7.8	2.3	3.5	5.9	-0.3	5.7	0.9
非耐久消費財	2.8	-2.9	-1.6	2.8	-2.3	2.2	2.8
生産財	3.6	-0.1	-5.0	0.8	-1.4	1.8	-0.3

(注) 通産省調べ。56年1月は速報。  
前年同期(月)比は原指数による。

算機、事務用機械が増加を続けたほか、製造業設備投資関連の金属加工機械も増加したため、全体では前月減少のあと小幅ながら増加となった。また、耐久消費財は小型自動車、二輪自動車、ラジオ・テレビ・音響装置等が輸出増からかなりの増加を示し、暖ちゅう房熱機器(小型石油ストーブ等)も寒気本格化に伴い増加となったほか、民生用電気機械(電子レンジ等)も増加したため、全体では前月を大幅に上回る増加となり、非耐久消費財は浴用石けん、タオル生地、ニットおよび繊維二次製品等日常家庭用製品や揮発油が減少となったものの、寒気本格化から灯油、総ゴムぐつが前月に続き増加したほか、液化石油ガス、天然色フィルム等も増加を示したため、全体では前月に続き増加となった。

また、生産財は、非鉄地金(銅地金、アルミ地金等)、冷間仕上鋼材(普通鋼冷延鋼板)等が流通・ユーザー段階の在庫調整等を映じて減少を続けたほか、有機薬品(エチレン、プロピレン等)、プラスチック(塩ビ樹脂、ポリエチレン、ポリプロピレン等)、紡績、織物等が減少を示したものの、非鉄金属铸件(ダイカスト等)、繊維原料(カプロラクタム等)、通信・電子部品等が増加を続けた

ほか、板紙(段ボール原紙、白板紙)、その他の紙・紙加工品(段ボールシート)、印刷・筆記図画用紙(塗工)、C重油等も増加となったため、全体では前月に続き増加した。この間、建設財も土石製品(コンクリート管等)、アルミサッシ等が住宅投資の不振等を映じ減少を続けたものの、小形棒鋼、銅電線が増加を続けたほか、H形鋼、普通鋼熱間鋼管、亜鉛めっき鋼板、板ガラス等が前月減少の反動もあって増加を示し、アルミドア、スチールシャッターも4か月連続減少のあと増加したため、全体でも前2か月減少のあと小幅ながら増加となった。

#### (在庫——再び減少)

1月の在庫(速報)は-1.4%と前月増加(+0.7%)のあとかなりの減少となった。この間在庫率指数(50年=100)は87.5と前月上昇(11月87.9→12月89.9)のあと再び低下を示した。

これを財別にみると、一般資本財、非耐久消費財が増加したものの、資本財輸送機械が減少を続けたほか、前月増加を示した生産財、建設財、耐久消費財も減少となった。すなわち、生産財は非鉄地金(アルミ地金等)が流通・ユーザー段階の在庫調整遅延から増加を続け、段ボール原紙も生産

### 鉄工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	55年				55年 56年		
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	11月	12月	1月
鉄指数	139.2	138.5	133.8	136.3	134.7	136.9	139.8
工前期(月)比	3.3	-0.5	-3.4	1.9	-2.0	1.6	2.1
業前年同期(月)比	9.6	6.8	2.4	1.1	0.0	1.0	2.0
投資財	2.0	0.4	-0.3	-1.5	-2.8	2.0	1.2
資本財	1.5	2.8	2.7	-0.3	-3.0	3.4	1.1
同(輸送機械を除く)	0.8	2.0	2.6	2.6	3.0	-1.8	0.7
輸送機械	0.6	4.8	3.8	-5.1	-12.4	11.9	2.2
建設財	2.3	-4.4	-6.4	-2.7	-2.1	-1.1	0.9
消費財	6.1	-0.8	-1.5	4.6	-1.6	1.2	6.6
耐久消費財	8.8	4.2	-2.6	8.0	-0.2	2.1	9.7
非耐久消費財	3.6	-4.6	-1.5	2.7	-2.7	2.1	2.9
生産財	2.7	-1.2	-6.2	2.2	-1.4	0.9	1.4

(注) 通産省調べ。56年1月は速報。  
前年同期(月)比は原指数による。

### 鉄工業在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(-)率・%)

	55年 (期末)				55年 56年		
	3月	6月	9月	12月	11月	12月	1月
鉄指数	107.3	110.3	114.2	114.9	114.1	114.9	113.3
工前期(月)末比	1.3	2.8	3.5	0.6	-0.3	0.7	-1.4
業前年同期(月)末比	5.0	9.4	10.7	8.6	8.0	8.6	7.8
投資財	1.9	8.2	4.4	2.3	-1.1	0.4	0.3
資本財	4.2	6.3	6.4	2.1	-1.0	-1.3	0.4
同(輸送機械を除く)	5.9	7.5	7.0	1.5	-1.1	-1.4	2.2
輸送機械	1.6	4.5	5.3	2.8	-1.2	-1.3	-1.3
建設財	0.9	10.2	1.6	1.0	-1.2	1.6	-0.5
消費財	2.6	-3.4	2.4	0.3	-0.6	1.3	-1.4
耐久消費財	4.4	-2.4	14.2	-1.0	-1.5	1.0	-4.5
非耐久消費財	0.8	-4.1	-6.9	-2.3	-0.5	-0.7	1.6
生産財	-0.5	4.7	4.8	-0.1	-0.1	0.7	-1.9

(注) 通産省調べ。56年1月は速報。  
前年同期(月)末比は原指数による。

の増加から在庫が再び増加したものの、プラスチック(ポリエチレン、塩ビ樹脂等)、有機薬品(二塩化エチレン、精製メタノール等)、紡績(綿糸)、織物(綿織物)が出荷の減少にもかかわらずメーカーの生産抑制を映じて減勢を持続したほか、アルミ圧延品、合成ゴム、繊維原料、白板紙、その他の紙・紙加工品等が出荷増を映じて減少を示したため、全体では前月増加のあと減少となり、建設財では、建設用金属製品(アルミサッシ等)、鉄筋用小形棒鋼が増加となったものの、セメント、土石製品(コンクリート管、コンクリートパイル等)が、メーカーの生産抑制もあって減少を続けたため、全体では前月増加のあと減少となった。また、資本財輸送機械は、普通トラック、バスが増加したものの、小型自動車、普通自動車、小型トラック等が減少したため、全体でも減少を示し、耐久消費財は、ラジオ・テレビ・音響装置、軽自動車等が増加となったものの、民生用電気機械(電気冷蔵庫、電子レンジ等)、暖ちゅう房熱機器(小型石油ストーブ等)、二輪自動車、光学機械・同部品(カメラ)、時計等が減少したため、全体でも減少となった。

一方、一般資本財は、特殊産業機械、通信機械、電力・通信ケーブル等が減少となったが、金属加工機械、土木建設機械、農業用機械、事務用機械、産業用電気機械(標準変圧器)等が増加を示したため全体でも増加となり、非耐久消費財は灯油、液化石油ガス等が減少となったものの、ニットおよび繊維二次製品、浴用石けん、天然色フィルム等が増加したため、全体でも増加を示した。

(民間設備投資—1月の機械受注は前月著増のあと減少、建設工事受注、一般資本財出荷はともに増加)

1月の機械受注(船舶を除く民需)は、-39.7%と前月著増(+64.3%)のあと減少を示した。業種別にみると、非製造業からの受注は、電力の反動減に加え建設等の減少もあって全体では-47.9%と前月著増(+74.8%)のあと大幅減少を示した(前年同月比+1.6%)。また製造業からの受注も石油が前月減少のあと大幅増加となったものの、

### 需要先別機械受注・建設工事受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	55年			55年		56年
	4~6月	7~9月	10~12月	11月	12月	1月
民需	6,331 (24.3)	5,567 (-12.1)	7,927 (42.4)	5,832 (-33.1)	9,226 (58.2)	5,760 (-37.6)
同(船舶を除く)	5,652 (16.5)	5,282 (-6.5)	7,624 (44.3)	5,442 (-35.9)	8,941 (64.3)	5,394 (-39.7)
製造業	2,634 (11.5)	2,196 (-16.6)	2,707 (23.3)	2,172 (-20.4)	3,219 (48.2)	2,389 (-25.8)
非製造業	3,667 (31.4)	3,351 (-8.6)	5,265 (57.1)	3,657 (-40.6)	5,978 (63.4)	3,334 (-44.2)
同(船舶を除く)	3,007 (17.9)	3,105 (3.3)	4,917 (58.4)	3,272 (-43.2)	5,720 (74.8)	2,983 (-47.9)
建設工事受注(民間)	4,138 (-0.1)	3,935 (-4.9)	4,125 (4.8)	4,176 (3.1)	4,150 (-0.6)	4,503 (8.5)

(注) 機械受注は 経済企画庁調べ。建設工事受注は 建設省調べ(43社ベース)。カッコ内は前期(月)比増減(-)率(%)。

鉄鋼、自動車、機械等が前月増加のあとかなりの減少となったため、-25.8%と前月大幅増加(+48.2%)のあと減少を示した(前年同月比-0.5%)。

一方、1月の建設工事受注額(民間分、速報)は+8.5%と前月小幅減少(-0.6%)のあとかなりの増加を示した(前年同月比+4.2%)。また、1月の一般資本財出荷は+0.7%と前月減少(-1.8%)のあと増加を示した。これは、電力設備投資関連の電力・通信ケーブル、産業用電気機械(標準変圧器)、合理化投資関連の電子計算機、事務用機械の増加に加え、前月減少をみた製造業設備投資関連の金属加工機械やクレーン、ベルトコンベヤ、エレベータ等も増加となったことによるものである。

### ◇小売商況は天候不順もあってやや足踏み

1月の全国百貨店売上高(通産省調べ、前年比、速報)は+7.4%と前月(+7.6%)並みのまですすの伸びを維持した。品目別には家具、身の回り品が低調を続けているものの、食料品、雑貨(スポーツ用品等)が高い伸びを続けたほか、冬物衣料品も寒気本格化に伴い高水準の前年をかなり上回る伸びを示した。もっとも、2月入り後の小売商況をみると、寒気滞留にともなう春物衣料品の出

足低調等からやや足踏み状態となっている模様である。

2月の主要耐久消費財の販売状況を見ると、2月の乗用車新車登録台数(軽を除く、前年比)は-8.0%と11か月連続の前年水準割れとなった(減少幅自体は前月に引続き1けた台にとどまった)。

一方、家電製品販売はビデオテープレコーダーが好調を持続、音響製品も総じて底固い売行きを示しているものの、洗たく機、冷蔵庫、カラーテレビ等は引続き伸び悩んだ。

#### ◇商況の基調——依然軟調

2月の商品市況は、合繊(ポリエステル系)、石

油製品(中間留分等)等一部品目が上伸したものの、鉄鋼が条鋼類を中心にほぼ全面安となったほか、アルミ、上質紙、砂糖が続落し、製材・合板、塩ビも弱含みとなるなど、大勢として軟調を続けた。

大方の業種が減産継続ないし強化を実施しているにもかかわらず市況が軟弱地合いを続けている背景をみると、

① 民間建築関連の引合いがここへきて一段と細まっているうえ、官公需も一部豪雪の影響もあつて盛上りを欠くなど、末端実需が低迷を続けたこと(条鋼類、厚板、アルミ、合板、塩ビ)、

### 卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(前月<期>比騰落率・%)

	ウエイト	55年		55年			56年		最近月の 前年 同月比
		7~9月 平均	10~12月 平均	10月	11月	12月	1月	2月	
総 平 均	1,000.0	0.7	- 1.7	- 0.7	0.1	- 0.2	- 0.5	- 0.2	3.9
食 料 品	140.9	1.5	1.4	0.4	0.6	0.6	- 0.4	0.1	6.8
非食料農林産物	18.9	- 6.8	- 5.0	- 3.8	1.3	- 0.4	- 1.3	- 1.8	- 16.5
織 維 製 品	62.9	- 0.4	- 1.5	- 1.2	- 0.8	- 0.6	- 0.2	0.4	- 0.1
製 材・木 製 品	33.6	- 6.2	- 5.6	- 3.1	0.5	- 0.9	- 1.6	- 2.1	- 14.2
パルプ・紙・同製品	28.9	1.0	- 1.8	- 0.6	- 0.6	- 0.7	- 1.0	- 1.6	5.8
金 属 素 材	12.6	- 2.4	- 6.6	- 4.3	- 1.2	- 0.7	- 4.1	- 2.2	- 27.2
鉄 鋼	80.7	- 1.2	- 1.1	- 0.6	- 0.3	- 0.4	- 0.7	- 0.5	1.7
非 鉄 金 属	26.1	- 1.1	- 3.9	- 1.7	- 1.6	- 3.3	- 4.0	- 3.1	- 26.6
金 属 製 品	37.0	2.3	0.5	- 0.2	- 0.2	- 0.1	- 0.1	- 0.3	8.1
電 気 機 器	73.3	0.6	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	2.3
輸 送 用 機 器	74.0	1.2	0	- 0.1	0.3	- 0.2	0.1	0.2	1.5
一 般・精 密 機 器	95.7	1.3	0.5	0.1	0.2	0	- 0.1	- 0.1	3.4
化 学 製 品	91.1	0.6	- 1.4	- 0.7	- 0.6	- 0.3	- 1.1	- 0.8	2.9
石 油・石 炭・同製品	102.2	2.6	- 0.0	- 1.2	0.5	- 0.1	- 0.5	1.1	13.9
窯 業 製 品	30.5	1.7	1.2	0.5	0.7	0.1	- 0.1	0	12.8
電 力・ガ ス	25.5	3.5	- 4.4	- 4.6	1.1	0.2	- 0.3	- 0.3	41.8
雑 品 目	66.1	1.6	0.4	0.2	0.3	0	1.2	- 0.2	6.2
工 業 製 品	816.4	0.8	- 0.5	- 0.5	- 0.1	- 0.4	- 0.4	- 0.5	3.3
大 企 業 性 製 品	579.9	1.4	- 0.2	- 0.4	- 0.1	- 0.4	- 0.2	- 0.5	5.1
中 小 企 業 性 製 品	214.6	- 0.4	- 1.1	- 0.7	- 0.1	- 0.2	- 0.4	- 0.5	1.1
非 工 業 製 品	158.1	- 0.5	- 0.5	- 1.1	0.9	0.5	- 1.0	1.1	0.3
国 内 品	801.9	1.4	- 0.4	- 0.6	- 0.1	- 0.1	- 0.3	- 0.5	5.9
輸 出 品	94.2	- 2.2	- 1.6	- 1.1	0.7	- 0.4	- 1.3	0.9	- 4.6
輸 入 品	103.9	- 1.5	- 2.0	- 2.0	0.9	- 0.4	- 1.6	1.2	- 3.4

(注) 日本銀行調べ。

② 安値輸入玉の流入が高水準持続ないし増勢をたどったこと(綿糸、厚板、アルミ、塩ビ等)、などからメーカー段階を中心に在庫調整が遅れ気味となっていることが主因であるが、このほか、

③ 一部業種では安値換金売りが跡を絶たず、市況軟化を拍車した貌(棒鋼、形鋼、上質紙等)。(卸売物価——統落)

2月の卸売物価は前月比-0.2%と3か月連続の下落となった(前年同月比+3.9%)。品目別に見ると国内品は、鉄鋼、木材、化学等の市況商品が統落したほか、完成品も引続き落ち着いた動きとなり、また下旬にかけて電力向けC重油の値下げ交渉(55/7~12月分)が決着したため、-0.5%と5か月連続の下落となった。一方、輸出入品は為替円安化に加え、鉄鋼のトリガー価格引上げに伴う値上げ(輸出品)や高値原油入着(輸入品)から、それぞれ+0.9%、+1.2%の上昇となった。

用途別にみると、素原材料は為替円安化や高値

原油の入着から+1.4%の上昇となったが、中間品は市況商品の統落やC重油の値下りから-0.8%と6か月連続で下落した。この間完成品は、鶏卵、豚肉の値上りから非耐久消費財が小幅上昇となったものの、時計、カメラの値下りや販売競争激化に伴う小型乗用車の値崩れから耐久消費財が下落し、また資本財も保合いにとどまったため+0.1%と引続き落ち着いた動きとなった。

(消費者物価——2月<東京都区部、速報>は前月比+0.4%の上昇)

2月の消費者物価(東京都区部、速報)は前月比+0.4%の上昇となった。これは、被服、光熱が小幅下落したものの、寒波の影響等に伴う野菜の統騰(+11.7%)や郵便料金の値上げが響いたことによる(除く季節商品では+0.1%)。

一方、前年同月比では、被服、光熱、住居の騰勢鈍化から+6.8%と前月(+6.9%)に比べわずかながら低下した(除く季節商品では+7.6%)。

### 消費者物価指数の推移

(前月<期>比騰落率・%)

		ウエイト	55年		55年	56年		最近月の前月比	
			7~9月平均	10~12月平均	12月	1月	2月		
東京	総合	100.0	1.1	1.1	-0.5	1.3	* 0.4	* 6.8	
	季節商品を除く総合	91.9	1.0	1.4	0	-0.1	* 0.1	* 7.6	
	(季節商品)	(8.1)	(1.7)	(-0.6)	(-6.4)	(18.3)	* (3.1)	* (-1.0)	
	食料	40.1	1.2	1.0	-1.0	3.9	* 1.0	* 4.7	
	住居	11.1	0.8	0.2	0.2	0.1	0.1	3.7	
	光熱	4.2	0.6	-0.1	-0.1	0	-0.1	38.5	
被服		12.4	-0.2	5.7	-0.8	-2.3	-0.7	6.6	
	雑費	32.2	1.5	0.3	-0.1	0.5	* 0.1	* 6.5	
全国	総合	100.0	1.2	1.0	-0.6	1.2	...	7.4	
	季節商品を除く総合	91.7	1.2	1.2	0.1	-0.1	...	7.9	
	(季節商品)	(8.3)	(0.4)	(-0.9)	(-7.9)	(15.6)	...	2.5	
	特殊分類	農水畜産物	16.3	0.4	1.2	-3.9	8.4	...	4.5
		工業製品	46.6	0.9	1.5	0	-0.5	...	7.0
		うち大企業性製品	21.4	1.1	0.3	-0.1	0.1	...	6.7
		中小企業性製品	25.2	0.6	2.5	0.1	-1.0	...	7.2
		サービス	33.6	1.0	0.5	-0.1	0.6	...	8.6

(注) 1. 総理府統計局調べ。  
2. \*は速報。

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	55 年			55 年		56 年	前年同月
	4～6月	7～9月	10～12月	11 月	12 月	1 月	
経 常 収 支	△ 4,533	△ 1,011	523	△ 582	1,178	△ 2,879	△ 3,372
貿易収支	△ 1,300	2,259	3,709	545	2,388	△ 1,473	△ 2,329
輸 出	30,841	32,663	36,428	10,837	14,052	9,184	6,865
輸 入	32,141	30,404	32,719	10,292	11,664	10,657	9,194
貿易外収支	△ 2,841	△ 2,968	△ 2,834	△ 1,022	△ 1,094	△ 1,247	△ 948
移 転 収 支	△ 392	△ 302	△ 352	△ 105	△ 116	△ 159	△ 95
長期資本収支	138	2,092	△ 1,035	109	△ 217	1,545	845
本邦資本	△ 1,603	△ 3,694	△ 3,903	△ 1,692	△ 1,093	△ 963	△ 484
外国資本	1,741	5,786	2,868	1,801	876	2,508	1,329
基礎的収支	△ 4,395 (△ 3,971)	1,081 ( 243)	△ 512 (△ 1,349)	△ 473 (△ 110)	961 (△ 190)	△ 1,334 ( 1,448)	△ 2,527 (△ 364)
短期資本・収支	△ 205	997	1,291	932	92	367	451
誤差脱漏	△ 1,023	69	△ 107	893	△ 653	919	△ 146
総 合 収 支	△ 5,623	2,147	672	1,352	400	△ 48	△ 2,222
金 融 勘 定	△ 5,623	2,147	672	1,352	400	△ 48	△ 2,222
外貨準備増減	4,099	1,126	1,464	200	296	1,270	687
そ の 他	△ 9,722	1,021	△ 792	1,152	104	△ 1,318	△ 2,909
外 貨 準 備 高	22,642	23,768	25,232	24,936	25,232	26,502	21,014
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	△ 33,627	△ 32,006	△ 32,816	△ 32,952	△ 32,816	△ 34,677	△ 22,927

- (注) 1. 基礎的収支カッコ内は、貿易収支のみ季節調整した計数。  
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。  
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通 関		輸 出 信用状	輸出認証	輸入承認・ 届 出
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入			
55年 4～6月平均	10,362 (+ 10.6)	10,654 (+ 7.1)	△ 292	10,595 (+ 9.8)	12,061 (+ 6.9)	7,210 (- 1.9)	11,009 (+ 9.7)	13,621 (+ 3.1)
7～9 〃	10,689 (+ 3.2)	10,215 (- 4.1)	474	10,967 (+ 3.5)	11,536 (- 4.4)	7,588 (+ 5.2)	11,549 (+ 4.9)	12,735 (- 6.5)
10～12 〃	11,519 (+ 7.8)	10,562 (+ 3.4)	957	11,898 (+ 8.5)	11,972 (+ 3.8)	7,726 (+ 1.8)	—	—
55年 10 月	11,342 (+ 4.4)	10,615 (+ 10.1)	727	11,754 (+ 5.9)	12,239 (+ 12.3)	7,559 (- 4.4)	12,113 (+ 2.0)	13,105 (+ 9.9)
11 〃	11,313 (- 0.3)	10,405 (- 2.0)	908	11,662 (- 0.8)	11,346 (- 7.3)	7,735 (+ 2.3)	11,900 (- 1.8)	11,477 (- 12.4)
12 〃	11,902 (+ 5.2)	10,665 (+ 2.5)	1,237	12,279 (+ 5.3)	12,332 (+ 8.7)	7,883 (+ 1.9)	—	—
56年 1 月	12,239 (+ 2.8)	10,930 (+ 2.5)	1,309	12,766 (+ 4.0)	12,292 (- 0.3)	8,169 (+ 3.6)	—	—

- (注) 1. カッコ内は対前期(月)比増減(-)率(%)。  
 2. 輸出信用状接受高および輸入承認・届出額は、特殊大口を除く。

#### ◇長期資本収支は既往最高の流入超

1月の国際収支は貿易収支が輸出の季節的落込み等から8か月ぶりに赤字に転じた(1,473百万ドルの赤字、前月2,388百万ドルの黒字)のに加え貿易外収支も投資収益の悪化等から既往最高の赤字となったため、経常収支は2,879百万ドルの大幅赤字となった(もともと貿易収支季調後では97百万ドルの小幅赤字)。この間、長期資本収支は対日証券投資の盛行を主因に既往最高の流入超(1,545百万ドルの流入超、前月217百万ドルの流出超)となり、総合収支は48百万ドルの小幅赤字にとどまった。

また、1月末の外貨準備高は26,502百万ドルと10か月連続の増加を記録した(前月末比+1,270百万ドル)。

#### (輸出——増加)

1月の輸出(国際収支ベース、季節調整済み)は価格上昇を映じて+2.8%と前月(+5.2%)に続き

増加した。品目別(通関ベース)にみると、船舶が前月引渡し集中の反動から大幅減となったが、反面二輪自動車、弱電製品、光学機器等が堅調な足どりを示し、また鉄鋼も高価格商品(シームレスパイプなど)の比重上昇など主として価格要因から3か月ぶりに増加した。

なお、2月の輸出信用状接受高(季節調整済み)は+9.9%と前月(+3.6%)に続き増加した。品目別には繊維製品、化学製品、鉄鋼、電気機械、自動車とも増加となった。

#### (輸入——増加)

1月の輸入(国際収支ベース、季節調整済み)は+2.5%と前月(+2.5%)に続き増加した。品目別(通関ベース)にみると、食料品がかなり増加し、綿花、木材も当月は入着集中から著増したが、他方原油、航空機は前月大幅増加の反動から減少し、また化学製品も4か月連続して減少した。